

平成25年度 自己評価書

学校名	和歌山市立大新小学校
校長氏名	寺 下 清
作成日	平成26年 3月 7日

1 教育目標

豊かな情操とまろやかな英知を育み、心豊かにたくましく生きる子どもを育てる

2 本年度の取組についての評価

	開かれた学校	ゆたかな心	確かな学力
重点目標【P】	保護者や地域、関連機関との協力・連携を深め、特色ある充実した教育活動を推進する。	感謝する気持ちやねばり強くがんばる気持ちを培い、他人を思いやるやさしい心を育てる。	子どもの学びや納得を大切にしたい授業づくりを推進する。

取組の状況【D】	・学校・学年だよりや学校ホームページ等で情報発信を積極的に行った。また、学校だよりを大新連絡所に掲示して地域の方に読んでもらった。 ・1・2年生や交通少年団と大新クラブ(老人クラブ)との交流を年間を通して行った。また、感謝の集いを行い、日頃お世話になっている方々に感謝の気持ちを伝えた。 ・太鼓指導や禁煙教育、人権教室など、ゲストティーチャーを積極的に迎えた。 ・音楽発表会を開催し、保護者や地域の方々に学習の成果を見ていただいた。	・外部講師を招いて1年生の道徳の研究授業を行い、全教員で道徳の授業づくりに取り組んだ。 ・人権をテーマにした授業を参観日に実施し、全校で人権意識を高揚を図った。 ・全校縦割り(なかよし)活動を実施し、互いを大切にする心の涵養に努めた。また、マラソンや縄跳びを通して、強い体をつくるとともに、がんばる気持ちとみんなで協力することの大切さを育てる努力した。 ・1円玉募金や公園清掃などの赤十字活動に取り組み、自主性とやさしい心根の育成を図った。	・5つの算数科の研究授業を行い、2・4・5年は校内研究、3・6年は教科等別研修会として公開授業を行い、子どもの思考を大切にする授業の在り方について教員の指導力を深めた。 ・個人差の大きい子どもたちに対して、学習補充の時間を設けたり、和歌山大学から学生ボランティア3名を受け入れたりするなど、学習支援の充実に努めた。 ・うちどく・図書コーナー、低・高学年図書室に新刊書を整備し、子どもたちの読書環境を整えた。また、低学年児童への読み聞かせを行うなど、読書活動の充実に努めた。
取組の成果と課題【C】	・地域の方とのふれあい活動は好評であり、地域の方も楽しみにしていただいている。 ・保護者アンケートで、「学校の教育活動や子どもの様子をわかりやすく伝えている」が90.2%(昨年度88%)、「学校と家庭がそれぞれの役割を果たし、連携協力している」が82.0%(昨年度88%)となり、いずれも昨年度より数値が高くなった。これは、学校だよりの紙面の工夫や丁寧な対応等が数値に表れているのではないと思われる。今後さらに工夫して取り組みたい。	・「学校が楽しいか」というアンケート結果は、児童91.7%、保護者91.0%であるが、「楽しくない」と思う児童への支援に力を入れていきたい。 ・「全校縦割りなかよし活動」は、本校の中心の取り組みであり成果も上がっているのので、来年度も引き続き行っていきたい。 ・「友達となかよくしている」という児童アンケートの結果は92.5%であるが、「いじめをなくす学校・学級づくりの取り組み」の保護者アンケートの結果は85.0%となっている。学校での取り組みを積極的に発信し、家庭との連携を緊密にしていきたい。	・「子どもが学習内容がわかり、基礎的な学力が身につけている」という保護者アンケートが、84.2%であった。一方、「毎日の勉強がわかる」という子どものアンケート結果は、90.2%となっている。個人差に応じた指導をよりきめ細かく工夫することが必要である。 ・基礎的な学力をつけるためには、家庭の協力が不可欠である。家庭学習や生活習慣の面で、学校と家庭の協力・連携をより一層深めていく必要がある。
改善方法【A】	・今年度の保護者アンケートの回収率は97.7%となった。今後とも大新小学校の取り組みを理解し協力していただけるよう、積極的な情報発信していきたい。また、学校のどの情報を発信するかについても、保護者の声を大事にしていきたい。 ・地域の方々と交流を大切にするとともに、地域の中の学校として愛されるよう学習発表の内容を工夫していきたい。	・縦割りのなかよし活動は、大新小学校の教育活動の核となる取り組みで、子どもたちにもよき伝統として定着している。来年度も、より充実した取り組みとしていきたい。 ・道徳の授業研究についても、来年度も引き続き行う。 ・様々な機会を捉えて学校の取り組みを保護者に伝え、理解と協力を求めていきたい。	・生活面や学習面で課題のある児童に対して、学校での支援を丁寧に行うとともに、家庭と連携して粘り強く継続した取り組みを進めていきたい。 ・算数の研究授業については、話し合いの時間を充実させるための「指導者の工夫」に焦点をあて指導方法の研究を深めていきたい。

3 その他の課題

・最も危惧していることは、ここ最近の児童数の減少です。昭和30年代には1,000人を超える大規模校でしたが、今年の児童数は131名、来年度は129名となる見込みです。大新小学校はとて素晴らしい学校で、子どもたちはやさしく思いやりがあり、子どもらしい子ばかりです。また、新しい校舎、新しい体育館、それに来年度は新しいプールが建設されることになっていて、とて素晴らしい教育環境が整っています。先生方も熱心で、小規模校の良さを生かして一人ひとりを大切にするきめ細やかな教育をすすめています。また、全校縦割りなかよし活動は、1年生から6年生までの子どもたちが1年間さまざまな活動を行っていきます。この活動をとおして、子どもたちはどの子も集団生活の基本や社会性、思いやりの心などを確実に育んでいます。このような大新小学校に入学してもらえるように、これからも地域への情報発信を積極的に行っていきたいと考えています。